



ごみが多かった一年 ～2021年を振り返る～

横須賀市久里浜

2021年は、非常にごみが多い年でした。それは前年の2020年に台風の上陸が無かった分、陸域にごみが溜まっていたためです。

そのごみが海までやって来たのが、2021年の2月15日の春の嵐。海岸は台風が来たようなごみだらけになりました。その後も、3月は毎週のように春の嵐が襲来、最後は、ゴールデンウィークが始まる4月30日に襲来し、ごみの多いゴールデンウィークとなってしまいました。



二宮町押切海岸

5月から7月にかけては、黒潮に乗ってやってきた海外からの漂流ごみに悩ま

れました。普段見かけない漁具やペットボトルなどが、海からの風が吹くたびに沖合からやって来ました。

また、5月から10月まで非常に多かったのが、バーベキューごみ。コロナ禍の影響もあり、バーベキューは近場で楽しめる屋外レジャーとして大人気で、それまでなかったマイナーな海岸までバーベキューごみが目立ちました。



平塚市金目川河口部

夏は、7月初頭と8月お盆の二つの豪雨により、大量のごみが漂着しました。雨の後、一度沖合まで流れ出たごみが海から吹く南風によって、ダラダラと打ちあ

がるのに悩まされました。

9月は夏のごみの後処理に追われ、それらがやっと片付いた10月1日に襲来したのが台風16号。相模湾沿岸では河口部周辺を中心に大量のごみが漂着しました。



逗子市逗子海岸

例年、ごみの漂着が落ち着く11月と12月では、両月とも初頭に大雨が降り、10月、11月、12月と一か月ごとにせっかくキレイになった海岸が汚れてまた清掃することを繰り返しました。

12月も後半に入ると、天気も落ち着き、年を明けた3月中旬まで、相模湾沿岸では非常にキレイな状態が続いています。

冬は相模湾側がキレイで東京湾側が汚くなる理由



昨年末から2022年の2月まで、相模湾沿岸は、非常にゴミが少なく、キレイな状態が続きました。

それと真逆だったのが東京湾側の一部の海岸。連日、ゴミの漂着が止まりませんでした。その理由は、雨と風です。

そもそも、海岸ゴミの多くは、陸域のみが、雨によって、川を通じて海まで流出し、それらが海から陸へと吹く風によって、海岸に打ちあがったものです。

冬場は、雨が少なくなるので、ゴミがあまり陸域から流出しません。それだけ

でなく、たとえ海まで流出しても、相模湾側では、冬の北風がゴミが海岸に打ちあがるのをブロックします。

その逆が東京湾側。北風は海から海岸へとゴミを運んでくる風になってしまいます。

しかし、「雨が降っていないので、ゴミが海まで流れていっていないのでは?」と思うかもしれません。

東京湾には東京都だけでなく、神奈川県、千葉県、そして埼玉県からのゴミも流れ込んでくるため、雨が降らずとも、

常にゴミが海中に存在する海域です。そのため、風が吹くだけで、沖合からゴミがやってきます。

写真は横須賀市旗山崎海岸と三浦市唐池海岸。どちらも、海岸線の端に位置し、「冬の北風によってゴミが吹き溜まる」ポイントです。特に、マイクロプラスチックは非常に多く、それらが陸域から大量に流出し続けていることを物語っています。冬の東京湾側の海岸は清掃しても、すぐにゴミだらけの状態に戻ってしまい、キリがありません。

海岸でクギが大量に出てきました



春先に強い南西風が吹くと、海岸の表面の砂が飛んで、砂の中から出てくるのが「クギ」です。

これは、夏の海の家の解体時に砂浜に落ちたモノ。古いクギもありますが、新しいものもかなりあります。

クギは、ふかふかの砂の上に落ちたら、あっという間に沈んでいき、落としたり最後、その場で手で回収す

ることが困難です。

こうした海の家のクギは、海の家が建つ全ての海岸で見つかります。

美化財団では、パチンコ店が床に落ちたパチンコ玉を回収する際に使う「ハンドマグネット」という道具を使用して、毎年数千本単位で海岸からクギを回収していますが、なかなか減らないのが現状です。

財団直営部隊が活躍しました

2021年7月から2022年3月までの162日間、4人1班体制で財団直営部隊が海岸清掃に取り組みました。

直営部隊は、ゴミ量が多い場所や優先順位の高い海岸の清掃などを実施し、約201トンのごみを回収することができました。





2022 オンライン交流会 supported by 湘南電力を開催しました

3月5日(土)に「2022オンライン交流会 supported by 湘南電力」を開催し、270名の参加申込がありました。

この交流会では、「アップサイクル」「Z世代」「地域づくり」というキーワードを具現化するをコンセプトに、先駆的に活動されている方々にご登壇いただきました。

最初の、テラサイクル アジア太平洋統括責任者 エリック・カワバタさんによる「捨てるという概念を捨てよう～Eliminate the idea of waste～」と題した講演では、世界の海洋プラスチックごみの実情から、日本の海岸に漂着した海洋

プラスチックを活用したアップサイクル事業について解説していただきました。

次の、NAMIMATI 代表 斎藤克希さんによる「SNSによるZ世代プラットフォームの構築」と題した活動発表では、Z世代ならではのSNSを活用したプロジェクトをご紹介していただきました。

最後の、湘南電力株式会社 営業企画部 係長 土井悠史さんによる「湘南電力の持続可能な地域づくり」と題した活動発表では、電気料金を通じて地域の取組を応援する仕組みや、再生可能エネルギーを活用した地域づくりの取組など

をご紹介していただきました。

どの講演・活動発表でも、参加者から多くの質問が寄せられ、関連な質疑応答が展開されました。



東南アジア向け研修プログラムで講演しました



3月2日に、環境省が行う海洋ごみに関する東南アジア向けプログラムの一環として、オンラインでインドネシア、ミャンマー、タイ、ベトナムの行政官等に対し、美化財団の仕組みや実効力のある海岸美化の方法などについて講演しました。

参加者からは、行政間の費用負担についてやボランティアとの連携の方法などについての質問が寄せられました。

桜美林大学インターンシップを受け入れました



3月7日から3月11日までの5日間、桜美林大学からインターンシップ生2名の受け入れを行いました。

学生2名は、財団職員とともに2トントラックに乗って、海岸パトロールに出かけ、ごみの漂着状況を確認したり、実際に清掃したりして現場仕事を体験しました。

また、企業との打合せで意見を述

べるなど、外部との連携の場にも参加して、実践的なコミュニケーショントレーニングを積みました。

さらに、ごみ調査だけでなく、イベント用のビーチグラスを拾いにいたり、海洋プラスチックごみを使ってアートした「プラごみパネル」も作成するなど美化啓発の仕事にも関り、幅広い仕事を体験しました。

個人ボランティアが大幅に増加しています

近年、ビーチクリーンボランティアのすそ野が個人へと広がってきていますが、2021年度はその流れが一気に加速しました。

これまで、ビーチクリーンの申込件数の過去最高は、2019年度の1,356件でした。2021年度は2,000件を超える見込みです。この増えた分のほとんどは個人です。

ボランティアのビーチクリーンは、どうしても派手なイベント的なものが目に付きやすいのですが、実は神奈川県は、ビーチクリーンボランティアが150キロの海岸に点々として、日々、海岸のごみを拾ってくれています。

言い換えると、神奈川県では、ボランティアによる高密度、高頻度なビーチクリーンが実現されているということです。

個人のボランティアは、団体とは異なり、毎月第一日曜日に〇〇海岸でといった固定した活動ではなく、平日で

もごみの多い場所で活動でき、機動性と即応性が高いのが特徴です。

増えた個人ボランティアの中心は、社会人とZ世代と呼ばれる若い世代です。海ごみへの関心の高まりと、リモートで時間に余裕ができたのが相まって、ボランティア活動に繋がったと思われます。そして、神奈川県にはその活動の受け皿が存在することが個人ボランティア増の一番の要因と思われます。

それが美化財団です。具体的には、ビーチクリーンボランティアに対し、ごみ袋などの提供だけでなく、ごみの回収までワンストップで支援していることです。

現在、ごみが海岸に上がったなら、美化財団が呼びかけなくても、すぐにボランティアの清掃が各所で行われ、人工ごみを取り除かれます。その後、残った木くずなどのごみを美化財団が一気に片付けるという役割分担ができるようになりました。これは、海岸美

化に非常に効果的で、神奈川県では、ボランティアと連携した海岸美化の取組みの理想形が実現されているとっていいかもしれません。

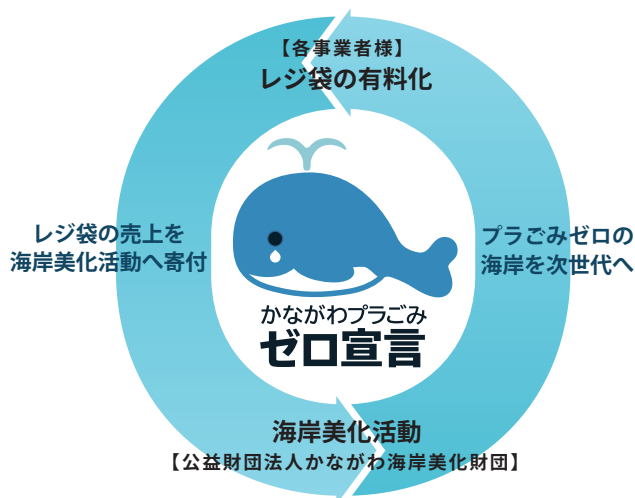


年度別
ビーチクリーンボランティア申込件数

年度	個人	団体	合計
2017	122	1,100	1,222
2018	127	1,143	1,270
2019	171	1,185	1,356
2020	286	673	959
2021	1,025	1,015	2,040

※2022年3月10日現在

レジ袋の売上げをご寄附いただきました



株式会社京急ストア様と相鉄ローゼン株式会社様からレジ袋の売上げの一部をからご寄附いただきました。

海のごみを減らすには、ごみの入口である「生活」からごみを減らすことと同時に、ごみの出口となる「海岸」でごみを回収する両方の取り組みが必要です。

当財団にレジ袋の売上げの一部をご寄附いただき、当財団がその寄附金を海岸美化活動に使うことによって、入口と出口の両方の対策をつなぐことができます。

海をきれいにするために何かしたいとお考えの皆様、当財団へのご寄附是非ご検討ください。

オリジナルコットンバッグをご協賛いただきました

神奈川トヨタ商事株式会社様と神奈川ハマタイヤ株式会社様より、オリジナルコットンエコバッグを400個ご協賛いただきました。

ありがとうございました。

「NO BEACH NO LIFE」のメッセージがおしゃれな仕上がりになっていて、イベントや環境学習の場で配布させていただきました。

